

業がその恩恵を受けるためには、景気効果が広く浸透する迄待たねばならないという背景がある、ということ。中小企業の景気もやっと回復に転じたといえますので、我国全体の景気もやっと本格的に回復に向って第一歩を踏みはじめたといえるでしょう。

■消費について

59年度の景気はどうなるでしょうか。57年度の個人消費は実質で4.7%で54年以来3年振りに4%台になりました。58年度については春闘ベア率が4.4%（労働省調べ）という低率に抑えられたので消費は3.5%程度になりそうです。（民間23機関の見込予想値）

59年度も諸情勢からベア率は4.5%とほぼ前年並みの水準とみられていますが、所定外賃金の増加は充分に見込まれ、収入面の環境はやや好転すること、59年度は1兆円減税の効果が加わることになります。ここ数年本格的な所得税の減税が見送られてきたことは租税負担率が上昇して、これが可処分所得の伸び悩みの大きな原因となっていたわけですから減税が行われると消費面の阻害条件もやや緩和されます。59年度の消費は環境の好転から景気回復のリード役とならないまでも下支え役は十分に担うことは期待出来ると思います。

■北陸地区について

北陸地区の景況も部分的にはまだマダラ模様はあ

るとしても製造業を中心に良くなってきています。ここで心配なのは合成繊維織物製造業のなかで予想をはるかに越えるまでにジェットルームの導入が急速に進んでいることです。58年度中に北陸地区に新設されるジェットルームは、3,500台～3,900台と予想されます。古いものが新しいものにとって替るのは至極当然のことながら、あまりにもハイピッチに進んでいるのでこれが産地秩序にどのような影響を及ぼすかが気になります。薄物のアメリカでのダンピング問題もあることなので、今春以降の模様がどのように展開してゆくのかを見守りたいと思います。

■環境変化への対応

環境変化への対応は一人一人の中小企業の皆さんが単独に行うのではむづかしく、またその効果も充分なものが期待出来ないと思います。高度情報化社会への対応としての必要なハード面の高度化、ソフト面の新構築が課題となりますが、これを例えば国の施策としても推進されている異業種連繋グループを組織してゆくことなどで解決することが必要となります。

共同・協業化も従来のようなハード（共同施設等）からソフト（共同研究等）の側面が重要になって来ていることをお考えいただきたいと思います。

昭和58年度 晴れの受賞者

藍綬褒章

昭和58年11月3日



明希株式会社 社長 石黒 傳六 氏

多年にわたり医薬品製造販売業に携わり、石川県薬剤師会副会長などの要職を歴任、業界の振興発展に尽力した。現在、石川県薬業卸協同組合専務理事、石川県薬事振興会長。

藍綬褒章

昭和58年11月3日



株式会社小堀酒造店 社長 小堀 甚九郎 氏

昭和37年1月以来調停委員として調停事件解決に尽力しつつ、金沢調停協会副会長、石川県調停協会連合理事などの要職を歴任、調停制度の普及発展に寄与した。現在、金沢地方家庭裁判所調停委員。

産業功労章

昭和58年11月17日



小川株式会社 社長 小川 甚次郎 氏

金沢商工会議所副会頭を務める一方、(協)金沢問屋センター理事長として同センターを全国有数の卸商業団地として育てるなど地域経済の振興と発展に尽力。また伝統産業の育成にも力を注ぎ、(協)加賀染振興協会理事長、(協)石川県観光物産館理事長、金沢市観光協会会長などの要職にある。

協同組合 金沢問屋センター

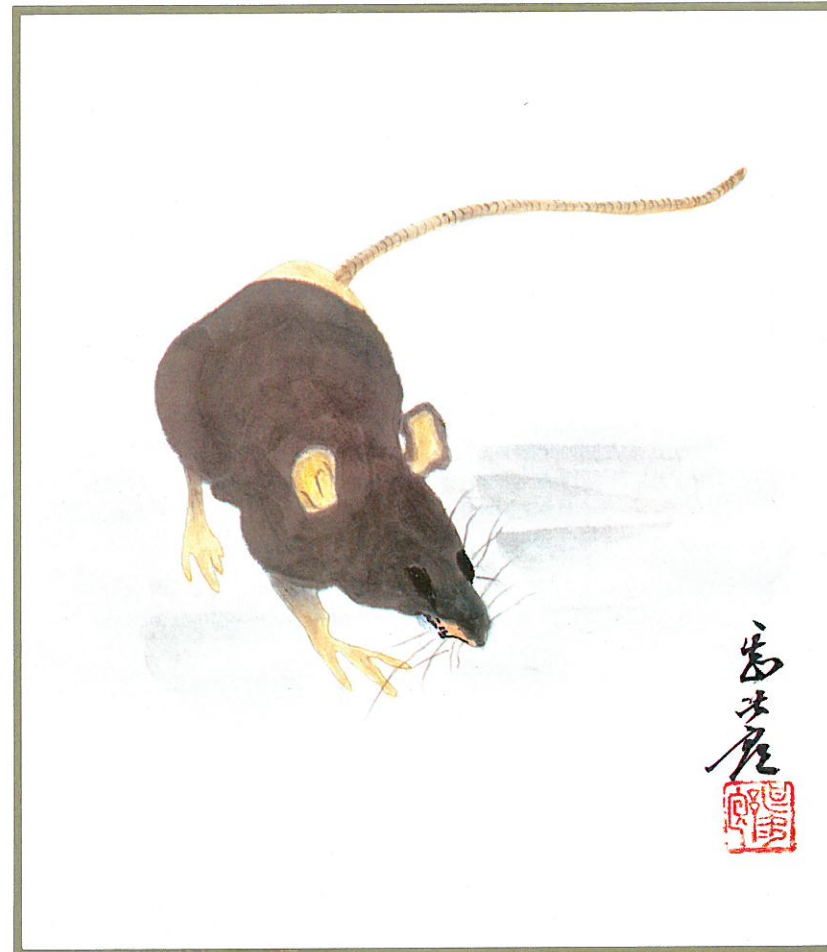
第28号 1984年1月発行

協同組合 金沢問屋センター

発行者 小川 甚次郎

金沢市問屋町1丁目

電話 37-8585



年頭の辞

協同組合 金沢問屋センター
理事長 小川 甚次郎

新年明けましておめでとうございます。

はじめに皆様ご承知のとおり昨年くれに、石川県より、一挙に四人の大臣が誕生するという歴史上初めての快挙でありましたが、とりわけ当、金沢問屋センターの顧問代議士である奥田先生が、めでたく郵政大臣に就任されましたことは、誠にご同慶のいたりであります。

さて、昨年は景気低迷の厳しい経済環境の中でスタートいたしました。関係各位のひとかたならぬご支援、ご高導のもと、組合員全社が揃って新しい年を迎えましたことを、喜びと誇りをもってご報告申し上げます。

さらに喜ばしいことは、只今建築中の金沢流通会館が皆様のお陰をもちまして、本年四月に竣工の運びとなることでもあります。情報時代のコミュニケーションの場として、人や物の交流が時代に対応して「生命の鼓動」のように規則正しく、的確に伝わるよう願ひまして大ホールを「パルス」と名付けました。この新しい会館の運営にあたりましては、組合員のみならず広く買外の方にもご利用いただけるよう積極かつ効率的な運用を図り、金沢問屋センターの新しいシンボルとなると共に、金沢市の都市開発に、更には、北陸経済圏の発展にも大きく貢献するものと確信いたしております。

又、団地の発展は組合員企業発展につながるわけですが、今年も高度化資金を活用いたしましての新築・増築を行う商社が四社ありまして、今後ますますその傾向が増えると思います。高度化事業の継続につき

ましては、日頃から関係機関各位の多大なご理解・ご援助を賜っておりますが、改めて心からお礼を申し上げます。

ところで私共流通業界は、今まさに重大な変革期に突入しつつあり、高度な技術と豊富な情報力を背景に「量から質へ」という限りなく多様化するニーズに対応を迫られております。すでに、これからの流通産業の方向を示すものとして通産大臣の諮問機関から答申された「80年代流通ビジョン」では、三つのことが述べられております。一つは、「高度先端技術」への目くばりと活用、即ち「ハイテク」であり、二つには、多様な消費ニーズに対応してゆく「人間的ふれ合い」即ち「ハイタッチ」であります。そして三つには、さまざまな新しい生活様式や文化の芽を「先取りする」即ち「ハイキャッチ」であります。これらこそ、これからの流通業のイメージであるということでございます。経済社会が「文化の時代」へと傾き、流通の役割が大きく変化しつつある今年年頭にあたり、近未来への経営のあり方を懸命に模索すべく、組合員各位と一体となって努力することを誓いご挨拶いたします。

'84新年互礼会開催

金沢問屋センター新春の門出を寿ぐ新年互礼会は、1月4日午後2時より金沢問屋町会館2階ホールで開催された。多数の来賓の御臨席を戴き組合員各社代表の参席の下に、先ず小川甚次郎理事長より、「今日流通業界の置かれた立場は難しい問題が多々あるが、高度な技術と豊富な情報力の活用の下に企業活動を展開していかなばならぬ。正に量から質への時代である。現在建築中の問屋センター流通会館は情報時代のコミュニケーションの場として積極的且つ効率的に活用され、組合の将来に資すると共に金沢市の都市開発、更には北陸経済圏の発展に寄与する

事を念願としている。」との年頭所感があった。

次いで中西知事、江川市長、宮商工会議所会頭、安田参議院議員、嶋崎参議院議員等来賓の方々の祝詞があり、更に奥田郵政大臣、森文部大臣の祝電披露の後、末岡市議会議長の発声の下に乾盃を行い祝宴に移った。出席者各位の歓談に興をそえ新春を祝って長唄「加賀の春」の御祝儀もあり興味よいよたけなわのうち、宇野県議会議員の音頭で万才を三唱し、盛況裡に問屋センター84年のスタートはきられた。



年男大いに語る

新春を迎えて還暦に思う



荒木商事株式会社
社長 荒木 登

徒らに馬齢を重ね年齢の重みを考える事なく過ぎて来た私に年男の原稿を頼まれた時、改めて人生の意義を問われた感を受けましたが、今日までは如何なる激動変化にも進歩は人類の歴史であり、前進なき処発展なしと考へ、常に可能性に挑戦する創意と勇氣に挑戦する信念を持って人間としての生き甲斐と考へて来ましたが、過日ある本より江戸時代に作られたと思われる文に、

何時も三月、花の頃 女房十八
わしや二十才 使って減らぬ 金百両
死なぬ子三人 皆孝行 死んでも
命のある様に

という非常にユニークな考え方に和やかさを感じました。何時も健康で心は恒に春である女房共々若さを維持し資産はコントロールされ、財産が減らないで適当に使いながら子供を育て、三人の子供は皆元気で親孝行をしてくれる。斯く楽しい人生は死んでも命のある様にという事になる。

そこで還暦とは人の生まれた暦年が60年目に還って来るので、又1才より出発する事にして第二の人生は中国の言葉にもある「忌、動、練、楽」をモットーにして行きたいと考へます。

忌はこれだけは避けなさいという意味で暴飲暴食はいけない、ルール違反はいけない、そして動は何事にも積極的にになりなさい、心の前進を考へなさい、練は心身の鍛練をしなさい、楽は心を明朗にしなさいという事で和やかに健やかに楽しく過したいと思ひます。

子年をむかえて



丸与商事株式会社
社長 八田 隆年

昨年の我国経済は米国経済の立ち直りをきっかけとする輸出の好調に支えられ、世界同時不況のもと戦後最長の市況低迷からようやく脱し、ゆるやかに

回復へと向かっているといわれ、暮れの日本銀行金沢支店長の講演にも、明春の市況は絶対明るく日一日と明るさを増し、5、6月頃になればあらゆる業界にも好況の光が当り、その時になってまだ不況を嘆く人が居ればその人は余程の努力不足か勉強不足の人であるとの真に心強い話でしたが、私達の繊維業界（和装・洋装を問わず）を見る時、決してそれは楽観は許されそうになく、むしろ更に厳しいものがあろうかとさえ思われ、決意を新たに昭和59年子年の正月を迎えました。

大正13年子年生れの私にとりましては6度目の子年であり、いよいよ還暦を迎える年となり更めて過ぎし60年を振り返ってみる時、その早さに驚くと同時に、喜び、悲しみ、辛い事、楽しかった事等々、色々60年間なりにあった様です。

今年の年男としての感想を書けとの事にてペンをとりましたが、さて鼠に関しては余り自慢になる様な話も見当らず、唯徒らにチョコマカと動き廻ることぐらいかと諦めておりましたが、たまたま北国新聞元旦号時鐘欄の冒頭に子年は「万物すべて滋る年」とあり俄然気を良く致し、更に本年は60年に一度の甲子の年なれば「あらゆる新芽が吹き出す年」との事にて漸く子年の面目が立った次第です。

私達の問屋センターにもいよいよ4月21日金沢流通会館パルスが完成致しますが、これこそ甲子の年の大きな新芽の一つであり躍進子年の象徴かと完成が楽しみに待たれます。

我社と致しましても折角「万物すべて滋る年」なれば商の面は勿論、人材面にも新しい芽を萌し、勇氣と自信を持って大いに滋らす様頑張り度いと念じております。

年頭所感



川上商店
代表 川上 嘉一

日本の上空を国籍不明の航空機がスクランブルにも拘らず横断しようとした場合、日本の航空自衛隊はどう対処するであろうか。下手に撃墜すれば大韓航空機の二の舞となり、しなければ主権侵害を見逃がしたとして国論は沸騰するに相違ない。平和に慣れた日本人は国と国との間に存在する厳しい緊張を忘れてる。その意味で昨年の大韓航空機の事件は国家主権というものを日本人の心に焼付けたに相違

ない。西欧の歴史に七百年間他民族の支配を受けた民族がいる。一口に七百年というが、一世紀五世代とすれば三十五代虜囚の民であった訳である。私は単純な軍備増強をいうのではなくて人間が国家というものを超えられない間、自分の国は自分で守るしかないという事をいいたいのである。平和な個人の生活の外側に、目には見えないが国家という大きな庇護者の存在を認識して欲しいだけである。日本は海洋国家であるが為に侵し侵されの歴史の連続する大陸国家とは本質的に違う。大陸に住む人々は常に侵された場合を考えている。又侵されるといふ事がどんな苦痛を伴うかも良く知っている。自分の国は自分の力で守る事は大陸の人々には全く当り前の事なのに、海洋国家であった為、又国土そのものを蹂躪された経験が無い為に今の日本人は少し呑気過ぎるように思うのは間違いであろうか。



宗教と私

勝尾商事株式会社
社長 勝尾 健一

少しキザですが、今の日本人の心は荒廃していると言われ、私もその1人です。物、すなわちお金が一番大切にされて人の心を軽くみている風潮が感じられます。昔に比べ物質的には大いに豊かになりました。

「80年代は心の時代だ」ある宗教から教えられ、いいセリフだと思いました。

自由は素晴らしいことですが、何もしない自由だけが先行して、世の中が変にゆがんでいませんか。行動の基準が損か得かではなく、神様仏様ならどうするかという自然の摂理にかなった、平和な、楽しい世の中の一人として、皆、仲よくうまくやっけてゆく方法を教えるのが、宗教の役割ではないでしょうか。

そんな素晴らしい道具があるのに、これの存在すら意識しない人が多すぎませんか。自民党だ、社会党だなんてことは宗教に比べ小さな問題で、それ以前に、自分の心のささえとしての宗教を、ぜひ持つべきだと思います。

私は今48才。「生長の家」を心の基準としていることに、大きなよろこびとしています。

ありがとうございます。



年男の夢

石織株式会社
常務取締役 山田 治作

謹んで新春の御祝辞を申し上げます。

また新たな一年の幕が上りましたが、皆様方には昭和59年、いかなる年でありましょうか。私には「本年は年男」、人生の大いなる節目となる年です。

昨年を振り返ってみますと、大変忙しく短い一年でありました。青年会議所活動に、又選挙運動にと西に東にと走り廻って、あっという間に一年が過ぎ去りました。無我夢中で進み続けたその後には、これまでに得る事のできなかった大切な私の宝を手をいたしました。それは多くの著名な方々とひざを交えて久しく語り合うことのできた事。また素晴らしい人生の友に出逢い、より深く結びついた事、そして一つの事に無心の気持ちで精神の全てをそそいで完成した時のあの感動。これまでになかった未知の発見でした。実りの多い年、忘れる事のできない年となった昨年を与えて下さった事を心より感謝しております。

その思いを込めて、また年男となる本年の新たな意気を込めて大みそかの夜、壇家の寺へ出向き鐘をつき、その響きの中、真白き心に帰る本年を迎えました。身も心も正し、第一歩からのスタートとして私の年である。

十二支のトップバッター「子年」、この年に、昨年の感激をそのまま継続させ、大いに飛躍し、企業においてもこれをフィードバックしたいと発奮しております。21世紀を目前にした今、私たちはもう一度金沢を、この団地を見つめ直す必要があると思います。視野を広く持ち、縦と横のつながりをより強く固め大海を泳いでみたい。そして養ったその目を持ち、当問屋団地の姿をキャンパスに描き未来へと発展させたいと思います。

初めて人と人の和、心と心の触れ合いをこの身に感じ得ると考えます。どんなに文明が発達し、文化が高まったとしても、その底辺に存在するもの、奥底に流れるものそれは21世紀の未来であっても、「誠実」。この一語であろうと思います。またこの心が全てを成し得る第一歩ではないでしょうか。

静から動へ、光が光を誘い合うごとく、歴史の重みの中から生れる未来の輝きをこの手の中につかみたいと決意し、新たな大いなる旅立ちをこの年にと念じております。

謡曲教室生徒募集

団地内の愛好者で謡曲教室を開いておりますので、入会ご希望の方は世話役の金沢機工(株)井上社長迄お申し込み下さい。

- ◆講師 渡辺容之助先生
- ◆開催日 毎週金曜日
午後7時30分より1時間
- ◆場所 問屋町会館2F和室
- ◆月謝 2,000円

昭和59年度の経済見通し

商工組合中央金庫金沢支店
支店長 原田 鷹夫



■実質経済成長率

58年12月に民間23機関が発表した各機関の予測実質経済成長率(実質国民総支出の前年度比伸び率)の平均は4.3%でした。現在報道されている経済企画庁の原案は4.1%程度です。

我国の実質経済成長率は55年度に4.6%を記録した後は56年度3.5%、57年度3.3%、58年度は政府の当初見通し3.4%は上回るものの3%台となることが見込まれています。民間の平均4.3%、企画庁原案4.1%という予測は昨年春頃から回復軌道に乗った我国の景気が59年度は更に明るく見通されているということになります。

3年もの長い後退期間を経た後にこの景気回復のきっかけをつくったものは予想を越えた米国経済の急ピッチな景気回復ともう一つは原油値下りの効果だと思えます。

■米国経済

米国の景気は依然として調子は良いようです。米国の景気回復の背景は大巾な所得税(3年間1,817億ドル=約43兆円)や、金融引締による物価上昇率の鎮静化がインパクトとなって先ず個人消費、住宅投資などの家計部門に強い影響を与えました。次いで第二段階として企業部門の需要を呼び起こすことになるわけですが最近では設備投資が景気回復をリードし始めたと伝えられていますので米国は息の長い景気回復に入ったものと期待出来ます。米国政府の財政赤字は、約2,000億ドル(83年度)、貿易収支の赤字は700億ドルという不安材料はあるもののまづいい調子にあるといえましょう。

■国際経済

米国の諸外国に与える影響は大きく東南アジアの経済情勢も良くなって来ています。インドネシアは石油値下がり、フィリピンは政情の不安で依然苦しい模様ですが、台湾・韓国・シンガポール・マレーシア等の景気は回復しつつあり、ヨーロッパではイギリス・西ドイツが良くなって来ています。

最近の世界情勢をみますと、原油値下がりからマイナス成長下にある中近東諸国、財政・金融不安を増加させつつある中南米諸国とが問題をかかえている地域となりますが、世界全体としてはかなり良くなって来たといえます。世界の経済情勢を左右する米国の経済が非常に良くなりつつあり、今秋の米国大統領選挙を前にレーガン大統領が景気を悪くするような政策はとらないでしょうから、概ね世界の情勢は良くなってきているといえましょう。

■石油の値下がり

もう一つ昨年の景気回復のモメントとなったのは

石油価格の値下がりです。石油ショック以後10年間、世界の同時不況をもたらした石油価格の高騰は各国の石油節約対策の推進と、不況による石油の需要減、備蓄による量的確保策の推進等から石油の需給関係は大幅に緩和されて国際価格の低迷を招きました。結果として58年3月、石油輸出機構(OPEC)初の原油価格値下げ(アラビアンライト1バレル34ドルを5ドル下げ29ドル)と、OPECの生産量は4年前の30,800千バレルから17,500千バレル(43%減)とすることを決めました。このOPECの値下げ効果は我国の場合で消費者価格を0.6~0.7%の引下げ、石油代支払で1兆2千億円の節約となり、国民総生産(GNP)を0.4%引上げると経済企画庁は試算しました。石油価格は当面安定推移という期待が持てそうですから我国経済にも都合よくなります。

■我国の輸出

58年の景気回復をリードしたものはご承知の通り輸出です。事務機器、電子部品、V.T.R. また北陸を主産地とする合繊織物等がその主役でした。世界の景気回復の基調は引続くものと思われるので我国の輸出は引続き拡大して好況への牽引役を引受けることになるでしょう。58年度の経常収支は240億ドルに近くなると思いますが、59年度は更に大巾に増加するのではないのでしょうか。

■中小企業の景気

輸出の拡大に伴って長い不況の為に抑えられていた民間の設備投資マインドも回復する筈です。現下の金融緩和状態は都合良く企業収支の見通しも明るくなってきていること、投資減税も期待出来るとすれば大企業に比較して不振であった中小企業の設備投資も回復を強めて来ると考えられます。

今回の景気回復面での特徴は景気が全般的に回復する中で様々な跛行性が残っているということ、その一つに、中小企業の景気回復に遅れがあったということがあります。

商工中金で行っております「中小企業月次景気観測」によれば全体の景気上昇が58年2月であったとみられるのに対して、中小企業の景気は8月を底に回復に向ったと推定しております。全体の景気が上向きに転じて中小企業の出足の遅れが全体の景気上方転開の足取りを引張ったといえましょう。中小企業の回復が遅れたのは今回の景気回復が輸出主導型であったことに強い関係があります。

58年版の「中小企業白書」によれば、大企業の生産はその27.5%が輸出に依存しているが、中小企業ではこの比率が14.3%に過ぎないとしています。輸出の増加は大企業にとっては即効果があるが中小企